



同窓会会報 平成28年秋号

ご挨拶

母校創立70周年に寄せて

全日制同窓会会長 梅田 清永



と研鑽の賜物と思えます。

昭和21(1946)年4月1日、東

京都中野区桃園町に東京都立農産化学工芸学校と東京都立杉並工業学校を統合し、東京都立中野農産工業学校として創立されました。昭和25年11月に『東京都立中野工業高等学校』と改称。昭和30年8月、桃園校舎から中野区野方へ移転し、今年で創立70

創立70周年 おめでとうござ

います。これは歴代の校長先生はじめ、教職員の方々のご尽力

年になります。歴史ある幾つかの工業高等学校が統廃合される中であって、創立70周を迎えることが出来ることは、大変慶こばしいと思います。

これを記念し平成28年11月12日(土)午後、学校が主催で式典が母校体育館で挙行されます。

会場が狭いため残念なことに一般の方々は参加することが出来ません。ご了承下さい。また、

PTA・同窓会と共催で、同日午後6時から、中野駅前中野サンプラザ13階のスカイルームで祝賀会を開催することになりました。

創立70周年を機に1万名を超える同窓生の絆を深め、同窓会活動をより一層活発化したいと思えます。同窓会会員のご支援とご協力をお願い致します。

聞くところによりますと、近い将来、中野区立第6中学校跡地(母校の隣接地)を東京都が取得し、妙正寺川の向こう側にある実習棟を全て移転する計画があると

のことで。母校の益々の発展が期待されます。

母校の創立70周年をお祝いし、同窓会員の皆様のご健勝と母校東京都立中野工業高等学校の益々の発展を祈願致します。

以上

ごあいさつ

副校長 佐々木 雅人



本校同窓生の皆様には、日頃から、本校教育の充実・発展のために、ご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。私は本所工業高校定時制から本年4月1日に着任いたしました。前任校が定時制だったため生活のリズムが全く変わってしまいました。生徒の数の多さや色々な面での違いには驚かされました。工業高校ではありませんが、食品工業科があるため女子生徒が多く、また学校の敷地内

に川が流れているため、教室から実習棟に行くのには川を渡って行くのにもびっくりしました。しかし、いまではそれが日常となっています。

本校は70年の歴史を持つ伝統ある工業高校です。このように70年もの伝統を築きあげてこられたのも、同窓会の皆様、PTAの皆様が、学校を温かく見守っていただく賜物だと存じます。また、本校の先生方も校長先生を中心として、教科活動、部活動および学校行事等を通して一人一人の生徒の個性・適正・能力に応じたきめの細かい指導を粘り強く行っています。このような伝統校に教職員の一人として勤務することができましたことを誇りに思い、本校の充実・発展に関与できることを極めて意義深いことと受け止めております。

ものづくりという言葉が、日本特有の言葉でありこの言葉が使われたのはここ20年ほどです。ものづくりとは普通、製造業やそこで使われる技術、人々の

ことを指している言葉ですが、生産や製造を意味する言葉として盛んにつかわれるようになったのは最近のことです。日本特有の言葉であるものづくりですが、日本がものづくり大国、もしくは技術大国と呼ばれていたのは、昔のことになってしまいました。ものづくりの現場は、ベテランが新人に「巧の技」を伝承していましたが、現在は工場に若者の数そのものが少なくなっています。それは、工業高校の数の減少が起因です。工業学科のある高等学校の数は、ピークだった1965年の925校から、

2013年には542校と、4割以上も減ってしまいました。工業高校の生徒数も、ピークの62万人から26万人へと、何と6割弱も減りました。このままでは、いずれ日本の工場から若者がいなくなってしまうのではないのでしょうか。私は日本が、得意分野であるものづくりを行い、ものづくり大国に帰り咲く必要があると思っています。そのものづくりに特化した教育の行える学校は工業高校であると思いますし、社会への自立に向

中野工業高等学校 祝 70周年



けて教育を展開しているのも工業高校であると思っています。日本は世界では例がないほど、老舗企業が多い国でもあり、今の小学生がなりたいたい職業の一つに「職人」があります。その職人を排出するのも工業高校ではないかと思えます。

工業高校においては、ものづくりの感性を養うタイミングを逃すことなく、確かな技術を身に付けさせ豊かな人間性をはぐくむとともに、自らの生き方・在り方についても考えさせ、職業観や就労観を養うことが必要です。

ご挨拶

PTA 会長 中野 ひとみ



6月に開催されましたPTA総会において平成28年度会長に務めさせて頂くことになりました中野ひとみと申します。一年間よろしくお願いいたします。

子供を授かった事で、小学校・中学校・高校とPTA活動で様々な機会に触れ、子供達と共に学び成長してきているように思います。

PTA活動を通じて先生方、地域の方々、他校の方々と交流することができるとは子供・親・先生が共に学ぶ事で一つの目的を共有できるのだと思います。子供の健全育成というのが前提ですが、これは子供だけのことではなく先生も保護者も含めそれぞれに健

全な活動ができるための学びだと思えます。

PTA活動は、三位一体の取り組みがなければ成果を上げることができません。今年度、PTAは前例にとらわれることなく、良きものは継続し、悪しきものは見直して活動していき保護者の方々にもっとPTA活動に関心を持ってもらえるよう頑張りたいと思っています。

会長に就任して3ヶ月になりますがあわただしく日々が過ぎています。現在は、10月の中工祭と11月の創立70周年の準備をしています。

今年、中野工業高等学校は創立70周年の節目の年を迎えます。

昨年度から周年実行委員会にPTA役員数名参加して、梅田同窓会会長をはじめ同窓会の方々と祝賀会の準備をさせて頂いております。

不届きな点多々あるとは思いますが、皆様のご理解のもと、学校と同窓会と十分な連携を図りながら、PTA活動・運営等に務めていく所存ですのでご支援、ご協力をお願いしてご挨拶とさせて頂きます。

事務局よりのお願い

同窓会の活動の様子や、同窓生同志の情報交換の場として、本会報を発行しております。又同窓会の様子は母校のホームページの同窓会のページでご覧になれます。

同窓会活動資金として同窓会各年度(毎年)の会費2千円の納入をお願い致しており、毎年多くの方々より賛同を戴いておりますがまだまだ少数です。約1万5百名の同窓生の通信費、母校の部活動等の支援に資金が必要です。諸般の事情をご賢察の上、同窓会会員各位におかれましては、各種お知らせの際、同封の払込取扱票にて「会費2千円」を納入して下さいる様お願い申し上げます。

また、住所移転の際には是非とも事務局までご一報下さる様お願い致します。

現在、同窓生の住所の追跡調査をしております。同期・クラスに関係なく同窓生の所在が分かる方はご本人の了承を得てからご一報下さる様お願い致します。

問合せ先事務局

〒350-1304

埼玉県狭山市狭山台 2-25-12

田中 正二

Tel : 04-2958-4698

Fax : 04-2958-9729

E-mail : matnk37@nifty.com



同窓会役員会の様子

校長室にて

同窓会会員便り

楽しい人生を謳歌しています

第14期 食品科学科B組(卒)

島田 俊一

3年生になった時、草開先生から全薬工業の入社を勧められ、就職しました。小学生の頃から化学が好きで、製薬会社で仕事ができると嬉しかった記憶が蘇ります。

当時、会社には品質管理部門が独立していなくて研究所の中のの仕事となりました。いきなり、分析方法の開発を与えられ、今までの勉強不足が痛切に感じられました。周りには化学系、薬学系の人たちばかりでみじめな気分になりましたが、勉強するしかないと思いましたが、幸いにして先輩たちは親切に指導してくれ、かなり短期間に大学程度の知識を得ることができました。多分この時期が一番意識した勉強の時だったでしょう。何とか品質管理部門が出来上がり、品質管理、品質保証といった業務が中心とな

りました。

42年間務めた仕事は部署は変われど業務は変わらずの毎日でした。自分にしてみれば仕事とはいへ趣味を毎日楽しんできたような感じでした。

工場が栃木県黒羽町への移転に伴い、大田原市に移住しました。定年10年前、栃木県でできた友人と版画を始めることになり、その面白さにのめりこんでいきました。定年の時、会社からは引き止められました。版画を自由な時間好きなだけやっていきたいと思ひ、退社することにしました。本格的に版画を始め、版画の先生や友人たちの勧めもあり、伝統的な版画手法を重んじる国内最大の「日本版画院」の公募展に挑戦を始めました。そして、院友、同人と順調に進んできました。

現在は3つの版画の会の役員、自治公民館長、ハイキングの指導員などを務めています。

今までの人生は楽しいことばかりをやった。幸せな毎日でした。学校の先生たち、先輩、友人など私を取り巻く沢山の人間たちとの出合が大事なのだとつ

くづく感じています。

皆さんに感謝しつつ、「何を残したのだろうか、これから何を残せるだろうか」を念頭に毎日を積極的に過ごしていきたいとおもうこの頃です。

大好きな中野工業高校の

思い出と今の私

25FA
亀石 由美子

少子化の時代に統廃合されている小・中・高校が多い時代に、母校が健在であることは非常に喜ばしいことで、なんと今年は創立70周年とのこと、さらなる発展をお祈りいたします。自分の卒業した高校が無くなってしまふことがあつたら、私は私でなくなつてしまうような恐怖を感じてしまいます。なぜならば私は中野工業高校が大好きで大好きで学校に行くのが何よりの楽しみでした、友達とのおしゃべり・憧れの先輩に胸をときめかしたり、放課

後職員室にお邪魔して松澤先生といろいろな話をしたり、私の人生のなかで一番輝いていた時代かもしれない。もし私が認知症になつたらきつと中工生になつて周りを困らせるんだろうなと考えてしまいます(認知症になるとその人の一番輝かしい時代に戻るともいわれています)学校が大好きというときぞかしお勉強

が大好きと思われるかもしれませんが、実は勉強大嫌いでした。恐ろしいほど勉強をしなかつた悪い生徒でした。よく実験器具も壊しました。(申し訳ありませんでした)遅刻、赤点なんて朝メシまえ!自慢できることではありませんが:ある期末試験の答案用紙が返つてきたとき、丸が一つもないのになぜか5点がついていました。きつと名前を書いていたので温情で5点下さつたのだと思いません。草開先生ありがとうございます。そんなしようなない生徒を見捨てず暖かくご指導ください。た松沢先生や諸先生方には感謝しても感謝しきれません。そんな私もなんとかかんとか中野工業

高校を卒業して早いもので42年。卒業式が終わつてもう大好きな中工に通えないと思つたら悲しくて3日間ぐらい泣いて暮らしたことをいまでも覚えています。そんな勉強大嫌いの悪い生徒だった私が勉強大好き人間に大変身!何が起つたのでしょうか。

実は20年ほど前から介護の仕事に就き特別養護老人ホームで毎日楽しく仕事をさせていただいております。介護経験などまつたくない40過ぎのおばさんがなんと介護の仕事がしたくて通信教育のNHK学園で2年間学び介護福祉士の受験資格を得て受験し資格を取りました。スクーリングはとても楽しく先生の話を一言一句聞き漏らすまいと聞いておりました。どうしてもこの資格が欲しくて猛勉強しました。試験前にこれほど勉強したのは私の人生の中で初めてのことです。眼精疲労というものも初めて経験しました。その後、色々つまずきながら仕事をしてきましたが、もう一度福祉の勉強がしたくな

り往復4時間ほどかけて介護教員講習を受けに半年ほど学校に通いました。介護の先生になるための学校です。

卒業生による

第9回講演会開催される

「職に於ける国語・算数・

理科・社会」



9MA 吉原 忠一氏

講演内容

1 私の職歴(火力発電所の勤務)昭和33年3月、中工の機械科を卒業して、東京電力(株)に入社し、一ヶ月の新入社員教育を終了後、最初に配属されたのが、当時、

最新鋭の東洋一の火力発電所であった新東京火力発電所（東京・江東区・豊洲）で、4つの発電設備が稼動中であり、2つの発電設備が建設中で、私は建設の方に配属（機械課）されました。

配属された機械部門は、さらにボイラーグループとタービングループに別れ、私はボイラーグループ配属され、職場先輩の指示に従い、図面を画いたり、機器試運転の手伝いをしたりしていました。

当時、豊洲は石川島重工（現HHI）の造船所があり、その先に発電所と東京ガス豊洲工場があつて、その横（現ゆりかもめライン豊洲〜新豊洲）は東京都の石炭埠頭で、ここから発電所とガス工場が石炭の一部を供給していただきました。

発電所は設備が増したため石炭の使用が多く成り、自前の石炭荷揚げ設備が必要とされ、11月から翌年の昭和34年5月にかけて、石炭荷揚げ設備として揚炭機（クレーン）3基と発電所の貯炭場に

石炭を送るベルトコンベアの建設に着手し、私は先輩2人で建設の監理・監督を任せられました。

この後、川崎に発電所を建設する事に成り、その年の7月に転勤し、6台の発電設備を建設した後、保守部門に移り、ボイラーとその付属設備の保守と社会変化（大気汚染・海洋汚染の防止等）に忠じた設備の大幅な改良に従事しました。

昭和40年代の半ば、技術系から一転して、スタッフ職としてQC活動を主とした任務を3年間実施しました。

その後、久しぶりの転勤として千葉県市原市にある五井火力発電所に赴き再びボイラー設備の保守と改良を実施しました。

この発電所には4年半おりました後、再び川崎火力発電所に課長として戻りました。

その後、東電最後の勤務と成りました東扇島火力発電所（川崎市東扇島）に次長として転勤し、スタッフ職の安全担当として、所員・子会社・請負者の安全に担務して、平成8年1月定年扱いと

して退職いたしました。

翌年2月に子会社に移籍し、福島県広野（原子力の手前）、横浜の火力発電所で、請負者側として発電所に常駐し、所長代理として建設・保守・改良を担務してまいりましたが、子会社の最後として再び川崎火力発電所に常駐の所長として勤務し、平成14年11月に40数年間文字どおりの世の中を明るくする仕事を終えました。

その後1年も経たないうちに別の子会社から依頼があり、現役のとき同様の仕事に関する設計・調査を時々実施しておりましたが、最も印象に残るのが、苦勞した川崎の発電設備が寿命に成り解体の設計を行った事です。

なお、現在の川崎火力発電所は世界最効率のコンバインドサイクル発電（ガスタービンと蒸気タービンの併合）を行っております。

2 火力発電のしくみ（今と昔）
説明をする前に生徒さんに体育館の天井の照明を見てもらいました。

そして、この照明が、人間の目

には判明することは出来ませんが、1秒間に50回、灯ったり消えたりしている事を伝えました。

これは発電機が1秒間に50回転し、交流発電（十と一電気が交互に50流れている事）している事で、富士川を境にして東は50回、西は60回、いわゆる50ヘルツと60ヘルツである事を説明しました。

・昔（ユニット方式）

1つのボイラー、1つのタービン（羽根車）、1つの発電機の組合せで、ボイラーで高温（5〜600度）高圧（100〜200気圧）の水蒸気を発生させ、これをタービンに送り回転させ、これに発電機を結合させて発電するシステムで最高電力100万KW、効率42%です。現在も、この方式は稼動中です。
燃料は石炭（微粉炭）、石油（原油、重油、ナフサ）、ガス（液化天然ガス、高炉ガス）等です。

・今（コンバインドサイクル方式）
1つのガスタービン（ジェットエンジンと同じ構造）、1つのス



チームタービンを組合せて1つの発電機を廻すシステムで、スチームタービン回転させる水蒸気は、ガスタービンの排気（800度）にて、ボイラーを稼働させ（火は燃やさない）発生させる。

これはガスタービンの入口温度が高ければ高いほど効率が良くなりますが、タービンブレード（羽根）の金属が高温に耐えられる事が条件で、現在、世界最高1600度で効率62%、発電能力72万KWです。

なお、この設備は、旧設備を撤去した川崎火力発電所に建設し現在試運転中です。燃料は液化天然ガス（LNG）を使用しております。



Kawasaki thermal power plant

先輩の第9回講演会をきいて在校生の声を聴いてみましたのでその声をお届け致します。

生徒の感想文

1A Y・M

今と昔（55年前）比べていかなり変わっていたことが分かりました。日本の様々な企業や産業もこの話しを聞いてどんどん進

化していることを理解したとともに、自分にも必要な技術があったことに気付きされた2時間になりました。

1B S・N

勉強になったこと。

・文章を書くとき必ず1つ空けてから文を書くこと。

・会社によって社内での物の呼び方があるということ。

・学校で学んだことが社会に出たとき助けになること。

1C H・H

今日は話しをしてくれた方の仕事（東京電力）の話を聞いて今の土地と昔（55年前）の土地はかなりちがっていると、仕事をする上ではやっぱりどの教科も大切ということを知りました。

1D K・H

東京電力の火力発電所について

て聞いたけど、法律や色々な専門の用語が関わったりしていることが分かりました。色々な科目もあることが分かりました。

火力発電所にも色々な法律が関わっており専門の言葉にも興味がわきました。

1E S・R

社会が国語・数学・理科・社会でできているという深い事が聞けてよかったです。すごい前に卒業したのにこうやって中工に来て講話をしてくれるのがうれしかったです。

2A K・M

いまの時代と55年前の時代との違いを感じました。どういう会社でどのような仕事をしていたのが分かりましたが、まだ多くのことを知らないで知っていくことが必要だと思いました。

今と昔とは大きな違いは写真などで確認できましたが、も

つと火力発電の効率のよさや仕組みの違いやパソコンなどの導入などもあり、50年前と今では私の思った以上に変容していることがよく話を聞いて分かり、一番印象に残ったことだと思いました。

2B O・R

職業の中では、さまざまな教科の要素が必要になってくること、その職業をする中で独特の単語を覚えなければならぬことについて勉強になりました。

法則や法律も職業に関わるのも分かりました。

2C A・S

機械科に入っていたら多少理解できたと思います。タービンやニュートン、ボイルなどは食品工業の授業で習っていたので分かりました。

2D K・R

今回は卒業生の方に来ていただき、工業排水や環境の話しや仕事に関する書類の詳細などを教えていただきました。川崎火力発電所の仕組みや細かい理論など面白い話が聞けました。

2E K・T

とても自分達にとって大事な話しをして下さってすごく勉強になったし、でも少し分かりにくくて難しかったような気もしましたが、なんとか最後まで頑張りました。とてもためになる事を聞けてよかったです。

3A S・S

火力発電の仕組みについて分かりました。発電所や戦後間もないときの日本の話が聞けてよかったですと思います。

3B T・T

今回の講話は、小中学校で習っ

た国語・数学・社会・理科が社会人になって必要になっていくのだという事が分かりました。

3C I・S

国語・数学・理科・社会は、仕事のいたる部分に存在しており、実際に試してみたりすることで、説明が頭に残りやすくなる工夫がされていたことが勉強になりました。話し方がとてもいいねい、タービンなどの運動は摩擦などと関係があることを知りました。

3D T・N

生活を普段していると色々な法律を守って生活しているということが分かりました。

3E K・N

今、勉強していることが将来なんの役にも立たないと思っていたが、役に立つのが分かりました。

70周年記念式典概要

- 一、日時 H28・11・12(土)
- 二、場所 式典(本校体育館)
- 三、祝賀会 中野サンプラザ
- 会費 8,000円
- 13Fスカイ
- 四、式次第第(第一部)
- 午後2時～2時50分
- 1 開会の辞
- 2 国歌斉唱
- 3 学校長挨拶
- 4 都教育委員会挨拶
- 5 来賓挨拶
- 6 来賓紹介(祝電披露)
- 7 校歌斉唱
- 8 閉式の辞

五、式次第第(第二部)

- 午後3時10分～4時
- 1 同窓会記念講演
第1期生卒業生
渡辺 和義氏
- 2 母校作成DVD視聴
- 六、その他
- 創立70周年記念誌アルバム
1部 2000円

平成28年度総会資料

平成27年度事業報告

活動目標であった

1. 同窓会会報の発行 10月25日に発行する事が出来ました。
講演会の開催 12月24日に開催する事が出来ました。
2. 行事(催し事)
 - (1) 4月7日 入学式 2名出席 於:母校体育館
 - (2) 4月18日 役員会 7名出席 於:母校校長室
26年度収支決算及び27年度予算案、
総会開催に関する検討
 - (3) 6月7日 26年度同窓会総会 18名出席 於:グランドハレスホテル
 - (4) 6月5日 体育祭 2名出席 於:母校校庭
 - (5) 8月15日 役員会 8名出席 於:母校校長室
会報・講演会開催に関する検討
 - (6) 9月26日 役員会 10名出席 於:母校校長室
会報・講演会開催に関する検討
 - (7) 10月24・25日 中工祭(卒業生の歩み出展) 於:母校
会報発送する
 - (8) 12月24日 講演会開催 8名参加 於:母校体育館
講師:9M 吉原忠一さん 題目:職に於ける
国語・算数・理科・社会と題して
 - (9) 2月7日 新春交歓会 16名出席 於:グランドハレスホテル
 - (10) 3月5日 母校卒業証書授与式 2名出席 於:母校体育館

平成27年度収支決算書

収入の部

入会金	18,000	3,000 × 6名
会費	504,000	2,000 × 252名
寄附金	234,000	
臨時会費	175,000	総会(懇親会)、新春交歓会
預金利子	148	
小計	931,148	
前期繰越金	588,107	
合計	1,519,255	

支出の部

行事費	11,080	中工祭、講演会
懇親会費	145,315	総会(懇親会)、新春交歓会
会議費	7,024	役員会
通信費	86,929	
会報費	577,967	会報印刷、発送料
同窓会入会記念品費	9,720	校章、同窓会名入りバスタオル
体育祭参加賞費	101,736	レポート用紙
事務用品費	10,043	
振込み手数料	31,798	
小計	981,612	
次期繰越金	537,643	内訳 三菱東京 198,359
合計	1,519,255	ゆうちょ銀行 282,939 現金 56,345

収支決算について上記の通り報告致します。

平成28年4月30日 会計 中村 真一[㊟] 会計 渡邊 修也[㊟]

収支決算について関係書類を監査した結果、適正に処理されている事を認めます。

平成28年5月7日 会計監査 西村 満郎[㊟] 会計監査 江野下 健二[㊟]

平成28年度事業計画(案)

基本計画

基本的には前年度を踏襲するが、さらに親睦を深め母校への支援を強化していく。会報の発行、中工祭(文化祭)に「卒業生の歩み」の展示を充実して行く。

1. 同窓会会員の親睦を一層深めるため、おおいにアピールをする。
2. 同窓会会報の発行。
3. 講演会の定時開催。
4. ホームページの更新強化。
5. 行事(催し事)。

- (1) 母校入学式(4月7日)(同窓会より3名出席済み)
- (2) 平成28年度定時総会(6月12日)
- (3) 母校体育祭(6月上旬)
- (4) 母校文化祭(中工祭)(10月下旬)卒業生の歩み出展
- (5) 講演会(12月下旬)
- (6) 新春交歓会(2月上旬)
- (7) 母校卒業証書授与式(3月上旬)
- (8) 役員会の随時開催(2ヶ月に1回程度)

平成28年度収支予算(案)

収入の部

会費	560,000	2,000 × 280名
寄附金	250,000	
臨時会費	175,000	総会(懇親会)、新春交歓会
入会金	75,000	3,000 × 25名
前期繰越金	537,643	
合計	1,597,643	

支出の部

行事費	12,000	中工祭、講演会
懇親会費	150,000	総会(懇親会)、新春交歓会
会議費	10,000	役員会
通信費	90,000	各種案内、その他
会報費	580,000	会報印刷、発送料
事務用品費	10,000	
同窓会入会記念品代	40,000	
体育祭参加賞費	110,000	
70周年行事費	50,000	
振込み手数料	32,000	
予備費	513,643	
合計	1,597,643	